

弘前城天守は
石垣改修に伴う
曳屋工事により
77.6メートル
移動しました！



参画だより

弘前市マスコットキャラクター『たか丸くん』

No.62

2017.7.31

弘前市民参画センター

PICK UP!

男女共同参画の視点で読む
世界の格言・名言

運命がレモンをくれたら、
それでレモネードを作る
努力をしよう

デール・カーネギー



弘前市民参画センター事業紹介「平成28年度第3回ひとにやさしい社会推進セミナー」 P 2

「弘前市女性活躍推進企業紹介」 P 3

まなぼ「男女平等の誕生～女性の権利の草案に関わった女性～」 P 4

おとこの気持ち聞いちゃいました「まだまだ伸び代あり」 P 5

さんかくひとりごと「いろいろな女性の姿に」 P 5

ひとグループ
男女・団体紹介「素人がチャレンジし輝ける場を」 P 6

利用者・利用団体紹介「全日本写真連盟弘前支部」ほか P 7

本の紹介「今日が人生最後の日だと思って生きなさい」 P 8

センターからのお知らせ P 8



平成28年度第3回ひとにやさしい社会推進セミナー



講師の大西晶子さん

3月10日市民参画センターで、平成28年度第3回ひとにやさしい社会推進セミナーを開催しました。

『共生・協働』をテーマに地域活動をしているSEEDS NETWORK代表として、また菜食カフェを併設した21世紀型集会所indriya代表としても活躍している大西晶子さんが講師となり、「地域で経営すること」自分らしく生きるために」と題し講演しました。

★集会所indriyaについて

高校教員としてフルタイムで働きながら、ひとり親として子育てをしていたとき「仕事とは関係のないことをしてリフレッシュしたい」というのが始まりでした。自分のキャパシティにないものをやってみようと仲間を呼んで、様々な仕事を持っている女性が集まる会を不定期に開催するようになりました。人数も増え場所が必要と

なり現在の21世紀型集会所indriyaが誕生しました。この時点で教師は続けていましたが、自分がやりたいこと、これから必要とされることを準備している中で教師は、今自分が好きな仕事ではありませんが、好きなことは必ずいつかどこかで道は繋がっていくだろうから、いったん教師を辞めて『集まる』ということに専念しようと考えました。

★コミュニティビジネス

教師を辞めることを受け入れてくれた教え子に恥じぬよう大学院に進み経営学を学ぶ中でコミュニティビジネスを研究しました。ソーシャルビジネスでもコミュニティビジネスでも、社会性の高いことをやるときに利益がないと継続して続けて行くことはできません。利益を上げるためには誰もやっていないこと、革新的なことをやるのがセットになっています。私の修士論文では、NPO法人スポネット弘前の「スポーツは楽しい」という価値を市民に提供したことを書きました。スポーツは一般的には「厳しい」「戦う」「アスリート」というイメージがありますが、

それだけでなく、誰でも皆スポーツを楽しめばいいという当たり前の価値を提供したことがスポネットのソーシャルイノベーションだということを論文にしました。

★それぞれの価値観を大切に

男女の在り方。女性総活躍と言われていますが、女性でも専業主婦で生きたい人もいるし、バリバリ働きたい人もいます。それは女性だからじゃなくてその人の価値観、考え方だから。男性でも男だから頑張らなくてとは考える人が沢山いるけれども、働き盛りの鬱も多い。男性だから、女性だから、という固定観念ではなくて、一人の人として自分の価値観で自分らしく生きていけるような考え方が浸透すれば、ひとにやさしい社会になるのではないかと思います。

★子どもは希望

問題だと思っていることは日本の子どもの自己肯定感です。「自分は自分のままでいい」と思える子どもが少ない。それを高めていきたい。そして、子どもがそう思える社会になるためにはそれを「いいんだよ」と言える大人が沢山いることが大切なのではないかと思っています。「今見ている世界がすべてではなくて、いいことも悪

いことも知らないことがたくさんある。その中から人生を選んでいく」ということを周りの大人が楽しんで伝えることが大事なのです。「大人になるっていいことだよ、楽しいことだよ、自分で人生を選べるんだよ」としつつこく伝えていけば「もしかしたら良いことがあるかもしれない」と思えるようになるのではないのでしょうか。

いじめや自殺、貧困、暗いニュースが多い中、世界は目に見えない不安にあふれているように感じられますが、そうならないように私たち大人が不安のない社会を作ろうと思えばいいんです。

今夢中なのは「おしごと体験広場キッズハローワーク」というたくさんの団体や人が協力する子ども向けの職業体験のイベントの運営です。お金を払ってもらい、権利を買ってもらい、プロが体験させる本気のおしごと。子どもだまではなく、働くことが難しい、楽しいと感じたりすることができると。大人が楽しんで子どもを育てることは、地域をそして未来を育むことになるのではないのでしょうか。



★弘前市女性活躍推進企業紹介

平成29年1月にスタートした「弘前市人口減少対策に係る企業認定制度（女性活躍推進企業）」ですが、平成29年6月末時点で23社が認定されました。弘前市は、女性の雇用環境を改善し女性の個性と能力が十分に発揮できる社会の実現に向けて、女性従業員の活躍推進に積極的に取り組む企業等を「弘前市女性活躍推進企業」として認定しています。



今号は、認定された企業の中から15社の取組内容をご紹介します！

認定番号	企業名	取組内容（一部）
第1号	株式会社 I・M・S	「くるみん企業」「えるぼし企業」認定に向け、それぞれ法に基づく一般事業主行動計画を策定・公表し、働く場における女性の活躍推進に計画的に取り組んでいる。
第2号	有限会社 ジュエリーかまた	マネージャー、リーダー、店長、店長代理、チーフの各階層に1人以上女性を配置しており、男女平等に活躍できる会社となっている。
第3号	株式会社 テクニカル	全国規模の展示会や技術展に女性を派遣して経験を積ませることにより、女性社員の知識取得や意識向上に取り組んでいる。
第4号	株式会社 東邦設備工業所	女性専用の休憩室等を設置し女性が働きやすい環境を整備しているほか、その様子を自社ホームページに掲載し、女性が働きやすい企業であることをPRしている。
第5号	張山電気株式会社	女性のスキルアップにつながる資格取得に積極的に取り組んでおり、過去2年間で電気工事施行管理技士3名の合格者を輩出している。
第6号	北村技術株式会社	国土交通省が推進する新たな取り組みを担当する重要部署に女性を配置している。また、それについて東北エリアの企業ガイドに記事として掲載し、女性が活躍する企業であることをPRしている。
第7号	城東電気株式会社	時間外勤務をABCで判定し、C判定の社員へは医師との面談希望を確認し社長へ報告して、勤務時間管理の徹底に取り組んでいる。
第8号	株式会社 弘都電気	建設業経理士3級取得のための研修に女性を派遣して合格させ、翌年には2級取得のための研修にも派遣するなど、女性のスキルアップを継続支援している。
第9号	和電工業株式会社	作業効率改善となる新工具の活用等を計画して業務の効率化を図り、時間外労働時間の削減によるワークライフバランスの向上に取り組んでいる。
第10号	株式会社 佐藤惣建設	求人票にポジティブ・アクション「女性の方も歓迎しています」と記載し、男女の格差をなくする企業として女性技術者の入職拡大をPRしている。
第11号	アサヒ建設株式会社	国土交通省が推進している「もっと女性が活躍できる建設業」への取り組みとして「行動計画」を策定し、女性が働きやすいように雇用環境を整備している。
第12号	株式会社 弘前水道	ワークライフバランスについての社員研修を実施し、ワークライフバランスの推進による個人や企業、社会全体への効果を国の資料を用いて周知・啓発している。
第13号	株式会社 日善電気	自社ホームページの採用情報のページに「やりがいを持って、一生懸命取り組める人募集中」と記載し、男女問わず、やる気のある方を積極的に採用する旨PRしている。
第14号	有限会社 丸二建設	所定の要件を満たしたパートタイマーのための正社員転換制度を設け、転換の試験を毎年1回行うこととしている。
第15号	東弘電機株式会社	能力に応じて非正規雇用から正規雇用となった女性があり、男女問わず能力を発揮できる職場環境を整備している。

弘前市女性活躍推進企業（第1号～第15号）

※「くるみん企業」「えるぼし企業」とは、子育てサポート企業や、女性の活躍を推進している事業主として国の認定を受けた企業です。

まなほ

このページは男女共同参画についての学びを深めようということから企画されているページです。



「暮らしと憲法」という特集番組を視聴した。憲法改正が議論されている時期でもあり、ちょっとした興味からだったが期待以上の内容だった。日頃、日本国憲法について考えることもなく暮らしている。すべて国民は法の下に平等であるとし、性別により差別されないとしている新憲法には大きな意味があったのだろう。今から70年前の1947年5月3日に日本国憲法が施行された。憲法に初めて男女平等がうたわれ、多くの女性たちは未来が開けると期待したという。また婚姻の自由も保障され、両性の合意のみに基き婚姻が成立するとされた。それから70年、男女平等が常に問われてきたのが労働現場である。今、非正規労働者の7割を女性が占めている。世界経済フォーラムによると日本の男女格差は世界144ヵ国中111位、とりわけ経済分野では118位と男女の格差が大きくなっているという。

(NHK「暮らしと憲法第1回男女平等は実現したか」から)

★男女平等の誕生 ～女性の権利の草案に関わった女性～

戦後、焼け野原から復興をめざした日本。男女平等はどのようにして憲法に盛り込まれたのだろうか。当時GHQ（連合国軍最高司令官総司令部）は民主化をすすめていた。新憲法の草案は1946年2月GHQによってつくられた。GHQ民生局で女性の権利の条文を担当したのは当時22歳のベアテ・シロタ・ゴードンさん。ベアテさんは5歳から10年間父の仕事の関係で日本に暮らしている。子ども心に強い印象を残したのは家や男性に束縛されていた女性の姿だという。「自分の目でいろんなものを見ました」「男の方の後ろを歩いている女性を見ました」「何かを決めるときにはなんでも男性が決めていた」「自分が好きな人と結婚できないということは大変なことだと思った」と語る。戦前の日本には「家制度」があり女性たちは結婚、相続など様々な場面で不平等を強いられていたという。

女性の権利の条文の草案を任されたベアテさんは、女性の権利を保障する理想的な条文をめざしたという。その中に「婚姻は両親の強制ではなく相互の合意に基づく」「個人の尊厳と両性の本質的平等の見地に立つ」という文章が見られる。1946年3月、日本政府とGHQとの間で条文の検討が行われ、ベアテさんも通訳として参加した。議論は30時間にも及んだという。女性の権利については「日本の国民に合わない。日本の歴史に合わない。日本の文化に合わない。これは全然だめだ」と反対意見があまりにも強くとても驚いたと話している。しかし上司であるケーディス陸軍大佐の説得でそれが通過した時のベアテさんの喜びは大きかった。

22歳の若さで、法律家でもなく、憲法草案作成について何の知識もなかったが、日本の女性たちが男性と真に平等の権利を獲得できるよう、力になりたいと心から望んでいたベアテさん。草案作成に与えられた1週間の間、この仕事に熱中し、10ヵ国の憲法を参照し、日本女性に対し米国女性より広範な権利を付与することになった。1991年に瑞宝章を授与されているが、ベアテさんによると、何よりの贈り物は何万人もの女性から直接感謝され、お礼の手紙をもらったことだという。

～参考 日本国憲法 第24条～

第24条 婚姻は、両性の合意のみに基いて成立し、夫婦が同等の権利を有することを基本として、相互の協力により、維持されなければならない。

② 配偶者の選択、財産権、相続、住居の選定、離婚並びに婚姻及び家族に関するその他の事項に関しては、法律は、個人の尊厳と両性の本質的平等に立脚して、制定されなければならない。

Q. 男女共同参画という言葉を知っていますか？

A. 知っているけど説明は難しいです。

Q. 職場では男女平等ですか？

A. 福祉の仕事なのでもちろん平等です。自分のセクションは男3女2で事業の計画立案、実行にあたっては、50代の女性の経験による意見が重要です。もちろんリーダーは女性です。

Q. パートナーとのコミュニケーションは？

A. 仕事が忙しいので、家に帰ると子どもたちは眠っているの、ふたりで飲みながら、食べながら、子どものこと、親のこと…etc.

Q. 自分でできる家事はありますか？

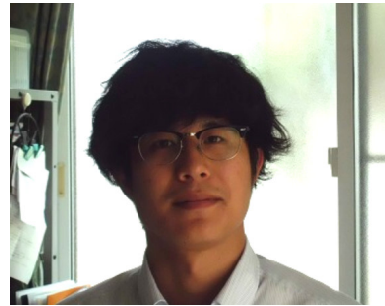
A. 掃除の助手（？）。共働きなので同居している両親の協力で…、将来親孝行しますので…（と、低姿勢）。

Q. 女性の政治家、管理職をどう思いますか？

A. 大いに活躍してほしい。会社で毎年ねふたを出していますが、7～8年前若い男子職員がなくて女性だけでねふたを出していたので女性の発想力、実行力を知っています。

Q. これからの女性に望むことはありますか？

A. 仕事だけでなく、趣味を持ってほしいです。人生を幅広く生きられる何よりの長生きの秘訣だと、施設の利用者さんを見て思います。



30代・会社員・既婚

おとこの気持ち
聞いちゃいました

インタビューを終えて

～まだまだ伸び代あり～

“何か放っておけない人”いますね。そんな人の周りには、いつも皆が集まって賑やか、楽しそう。知らないうちに人気者になっている。そんな感じに見える人。話してみると、信頼が加わり安心が加わる人。私たちの「老後を快適に過ごせる地域づくり」を考えてくれている福祉の人、期待しています。 梅

～いろいろな女性の姿に～



◎介護離職も問題ですが・・・

息子が母の介護のために離職して実家へ帰るという話。実際に見聞きしている。しかし、最近「これみたいへんだあ」と思ったことがある。間もなく定年という息子が離婚、病気になって母のもとへ帰ってきた。子どもを育てあげ、夫を見送り、やれやれとひと息ついた母である。一瞬「何が起こったの？」といった感じではないだろうか。入退院を繰り返す息子に寄り添うのは精神的にも肉体的にも大変だろう。80代を目前にした母に、体のあちらこちらに異変が起きてもおかしくない。入院しても息子を病院へ預けられない母。病院への往復で疲れ、退院すれば自宅での家事負担が大きくなるのしかかる。疲れの中で出口を模索する母の姿が身につまされる。

◎思い切り元気な姿に・・・

お肉を特集したテレビ番組。「お肉を食べると元気が出る」と見るからに元気いっぱいの80代前後の女性たち。にぎやかに焼肉ランチを楽しんでいる。「なんて幸せな人たちのな」とテレビに見入ってしまった。確かに、私の周りにも高齢で元気な女性が多い。将来の自分の姿だと言い聞かせて画面に目をやる。

「人生いろいろ」ではあるが、生活をするうえではまだまだ女性の負担が大きいなあと感じることが多い。家事育児を二人で協力し合いながら頑張る夫婦が増えたとはいえ、自分の息子はしっかりと子育てをしているのだろうか？と思いをめぐらす。

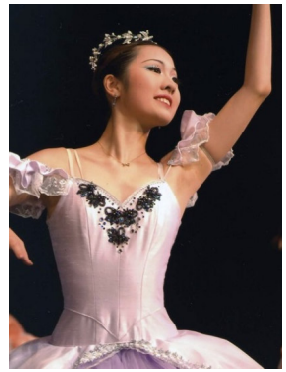


さんかくひとりごと

素人がチャレンジし輝ける場を

弘前バレエサークル
“タルト・オ・ポム”

代表 山川 若奈さん



山川若奈さん

バレエを教えることになったきっかけ

私は6年前、夫と二人で弘前に越してきました。当初は土地勘もなく知り合いもいない中、今まで仕事として身につけてきたことを生かせる職がなかなか見つからず、忙しく仕事をこなす夫と比較しては、「今まで頑張ってきたことは何だったのか」と悩み、家の中で鬱々と過ごしていました。

やがて長男が生まれ、たまたま覗いてみた笹森町子育て支援センターに通うようになると一気に世界が広まりました。今の自分を受け入れてくれる人が多くなる中で、何か頑張れそうな気持ちになっていきました。

そんなとき、『あおもりウィメンズアカデミー』に参加しました。頑張っている方々に触発され、「自分にも何かできるのでは...?」と思った私は、小さい頃

から習っていたクラシックバレエを週1回ボランティアで同支援センターに通う方々に教えることにしたのです。

大変だったこと

笹森町子育て支援センターが閉鎖されてしまったことです。古いけれど、どこか懐かしい感じのする施設で、ママ友たちや先生たちと特に連絡先を交換することもなく、行けばみんなに会えると思っていて通っていました。

そんな大切な場所が閉鎖。サークルも始動したばかりでしたので、目の前が真っ暗になりました。でも、こんなことでくじけてはいけないうと、子どもと一緒に活動場所を探し何軒も施設を回りました。心無い言葉に傷ついたりしたこともありましたが、結果、良い場所が見つかりました。その後、練習を重ねて、ヒロスクエアでミニ発表会も開催することができました。

気付いたこと

当初、経済活動に疎かった私は、人から金銭を得ることに気が引けており、ボランティアという道しか念頭にありませんでした。その反面、レッスン内容

としてはスクール並みかそれ以上のものにしたいと、毎回の指導も熱心に行い、自分の体にむち打ちながら仕事のように頑張っていました。

しかし、二人目を妊娠し半年ほどレッスンを休んだとき、色々考えました。初心者だったメンバーたちが徐々に踊れるようになったり、「感動した!」というメッセージを頂けるような素敵な発表会を成功させたりしているのを見ると、「もっと自分自身を評価してあげていいのではなか」と「自分のやってきたことは、人からお金をもらうに十分値することなのではないか」と思うようになりました。子育てがひと段落したら、怖がらずに仕事という道にチャレンジしてみようと思います。

今後の展望

弘前に、我々のような小さなサークルでも大きなことにチャレンジできる文化を広めたいです!これまで数回発表会を行ってきましたが、20代〜70代の大人たちが青春のように輝いている姿を見ると、みんなに大きな舞台の気持ちよさを味わわせて

あげたいと心底思います。

でも、私たちの発表会は出来ても15分が限度。そこで、我々のようなサークルがたくさん集まって一つの舞台を作り上げたりできたら...。他にも、音楽や声楽サークルとバレエとのコラボや、洋裁サークルに衣装を企画してもらおうのも面白いかもしれません。バレエを通じて、素人がチャレンジできる楽しい企画を沢山したいですね!

ただ、今は子育てで真っ最中。10年先を見据えて、焦らずに、準備だけはしっかりとしていきたいです。



「第2回ママフェス公演」



ふたりの息子さんの
子育て奮闘中



弘前支部写真展
(平成28年7月15日～17日)



市民ボランティア交流まつり
(平成29年2月12日)

す。自分の意志をはっきりと写すことが出来る不思議なメカに魅力を感じられるのです。年を重ねても、胸の奥深い所に常に少年の心が宿っていて、それが目覚め、大人になっても子どもみたいに言われたりします。女性にはないものらしいです。

時代も変化し、デジタル化になりカメラにも様々な製品がありますが携帯電話、スマートフォンなどでも手軽にカメラ任せで写せます。

どこに出かけても腕を前に出して携帯やスマートフォンを高くかざしたり、自撮り棒とやらを上にかざして撮影して楽しんでいる光景を目にします。写してみても物足りなさを感じること

全日本写真連盟弘前支部

支部長 福澤 孝博

TEL 35-2940

カメラのファインダーを通して

ばかりではなく部品が精巧にできています。ファインダーを覗いてシャッターを押すと、見たままの世界が記録として残りま

ま。何故カメラに夢中になるのでしょうか。カメラはメカ

写真撮る、見る、楽しむをモットーとしてカメラ好きが集まり活動している支部です。参画センターのスタッフの皆様には大変お世話になり、支部活動をスムーズに行っています。当支部もボランティア大会に参加したり、図書館で写真展と年間を通じて会員の作品を一ヶ月交代で展示して地域に根差した活動をしています。

弘前市民参画センター利用団体紹介
全日本写真連盟弘前支部

センター利用者に突撃インタビュー

50代・女性

◆センターの利用目的と利用頻度は？

子育てから徐々に手が離れたので、自分の時間を何かに使おうと思い参画センターでボランティアのことを聞いて関わるようになりました。今年で5年たちました。今日は「ふくろう通心」の配布作業のために来ました。週1回のペースで打ち合わせをしています。

◆センターを利用してみた感想をお聞かせください。

いろんな事務用品から、休憩するのに使うものまで揃っている所以便利です。いつも掃除が行き届いてきれいで、お花も飾られていて気持ちよく使わせてもらっています。

◆センターに要望はありますか？

2階のホールは夏は冷房がないので大変です。(でも職員さん大変だと思います)

◆「男女共同参画」についての感想をお聞かせください。

言葉で耳にすることはありますが、説明できるほど詳しくはないです。20年前は男女平等ということを感じて聞きましたが、今はあえてことばを使わなくても自然にしているのではないのでしょうか？今の若い子は共働きが多いので、男も家事を嫌々しているのではなく好きでやっている、それも自然体だと思っています。私は専業主婦ですが、子どもが家庭をもったときにふたりが話し合って決めたのなら、それはそれでいいと思います。

◆「今、一番」の楽しみは何でしょうか？

食べることが好きだから、年に1～2回旅行しています。その土地の名物を食べ歩きして楽しいです。これからも行きたいです。今は娘が他所で大学生活を送っているので娘のところに行くのが楽しみです。自分や夫の両親が健在のうちは旅行をしたいと思っています。



知り合いのお母さんでしたので、久しぶりにお会いしてびっくりしました！昔と変わらず生き生きして輝いていました。子どもたちが社会人や大学生になったと聞いて（お母さんは変わらないのに）自分が年をとった思いですが、お母さんに見習って生き生きしていきたいと改めて思いました。 by のん

平成28年度利用状況報告

☆弘前市民参画センター

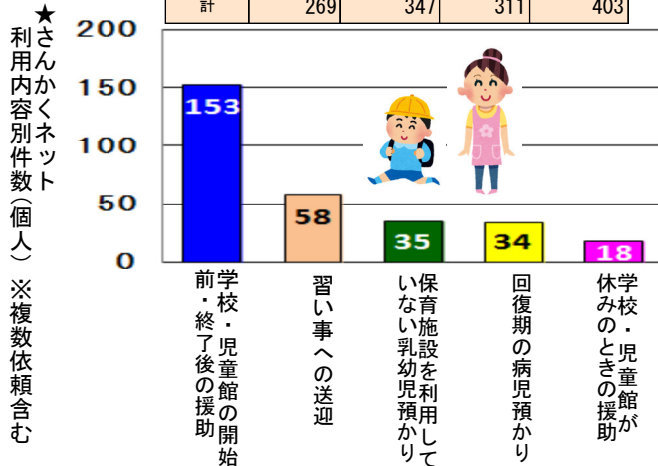
利用場所	利用者数	
	28年度	27年度
グループ活動室	15,019	14,173
ふれあいホール等	10,059	10,160
利用者数計（小計）	25,078	24,333
見学者	16	12
合計	25,094	24,345

利用目的	利用団体		公共団体		一般団体		合計	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
会議	12	161	309	3,483	321	3,644		
講習会・研修会・勉強会・講座	5	198	748	10,129	753	10,327		
講演会・フォーラム	1	30	8	275	9	305		
その他	19	596	11	147	30	743		
合計	37	985	1,076	14,034	1,113	15,019		

☆子育てサポートシステム さんかくネット

★さんかくネット利用件数・人数

利用件数	28年度		27年度	
	依頼件数	預かり人数	依頼件数	預かり人数
個人	240	269	277	347
団体	29	78	34	56
計	269	347	311	403



●臨時休館日●

市民参画センターは
8月28日（月）・29日（火）の2日間、
施設点検等のため休館します。



編集後記

今年の夏は暑いらしい…（はあ）参画センターの2階も暑いらしい…5月にグングン暑くなり、このましかあ！と思いきや6月の低温続き。まさかのボイラー再始動！こんな賑やかなお天気に振り回されながら、いざ夏本番2階ホールの利用者さん（自分も）が、少しでも快適に過ごせるか策を練っている今日この頃…（S）

【参画だよりに関するご意見、ご感想をお寄せください】



弘前市民参画センター

〒036-8355 弘前市大字元寺町1番地13

TEL 0172-31-2500

FAX 0172-36-1822

開館時間 9:00～22:00

休館日 12月28日～1月3日

<http://www.city.hirosaki.aomori.jp/sankaku/>

（市民文化スポーツ部 市民協働政策課 市民参画センター発行）

本の紹介

タイトル

「今日が
人生最後の日だと
思って生きなさい」

著者 小澤 竹俊
発行所 アスコム



～最後の一日は「人生に納得する」ためにある～

著者は医師。救急救命センター、農村医療、ホスピス病棟などの勤務を経て、2006年に在宅診療を専門とした在宅クリニックを開院している。これまで2800人以上の看取りにかかわってきている。

仕事の流儀「訪問診療医 小澤竹俊」という番組で初めてその活動を知った。患者とその家族に、ただただ寄り添う医師の姿に感動し、後日、その医師が書いた本に出会うことになる。「明日があるさ」とやるべきことを先送りしながら生きてきた私にとって「今日を人生最後の日だと思って生きる」だなんて…と思いながらページをめくった。

看取りにかかわったのはほとんどが末期がんの患者さんだという。その人の最後の一日に立ち会ったからこそ出てくる言葉の多くに、どんどのめり込んでいく。この本を読むことで病気の家族や友人とのつきあい方や寄り添う方法も学べると思った。また、自分自身が患者の立場になった時にも大きな助けになってくれるような気がした。

たとえ、それまで後悔の多い日々を過ごしてきたとしても、最後に「自分の人生は幸せだった」と思うことができれば、人は穏やかな気持ちでこの世を去ることができるというくだりがある。人が最後に「幸せだ」と言える生き方とはどのようなものだろうか。著者が今まで、看取りを通して学んだことは、「たとえ最後のときが近づいていても、自分自身の支えに気づけば、人は自分の人生を肯定し、穏やかになれる」ことだという。そしてその「支え」とは人それぞれに異なる。人生最後のときに「幸せな人生だった」と思いたいものである。

by komori

